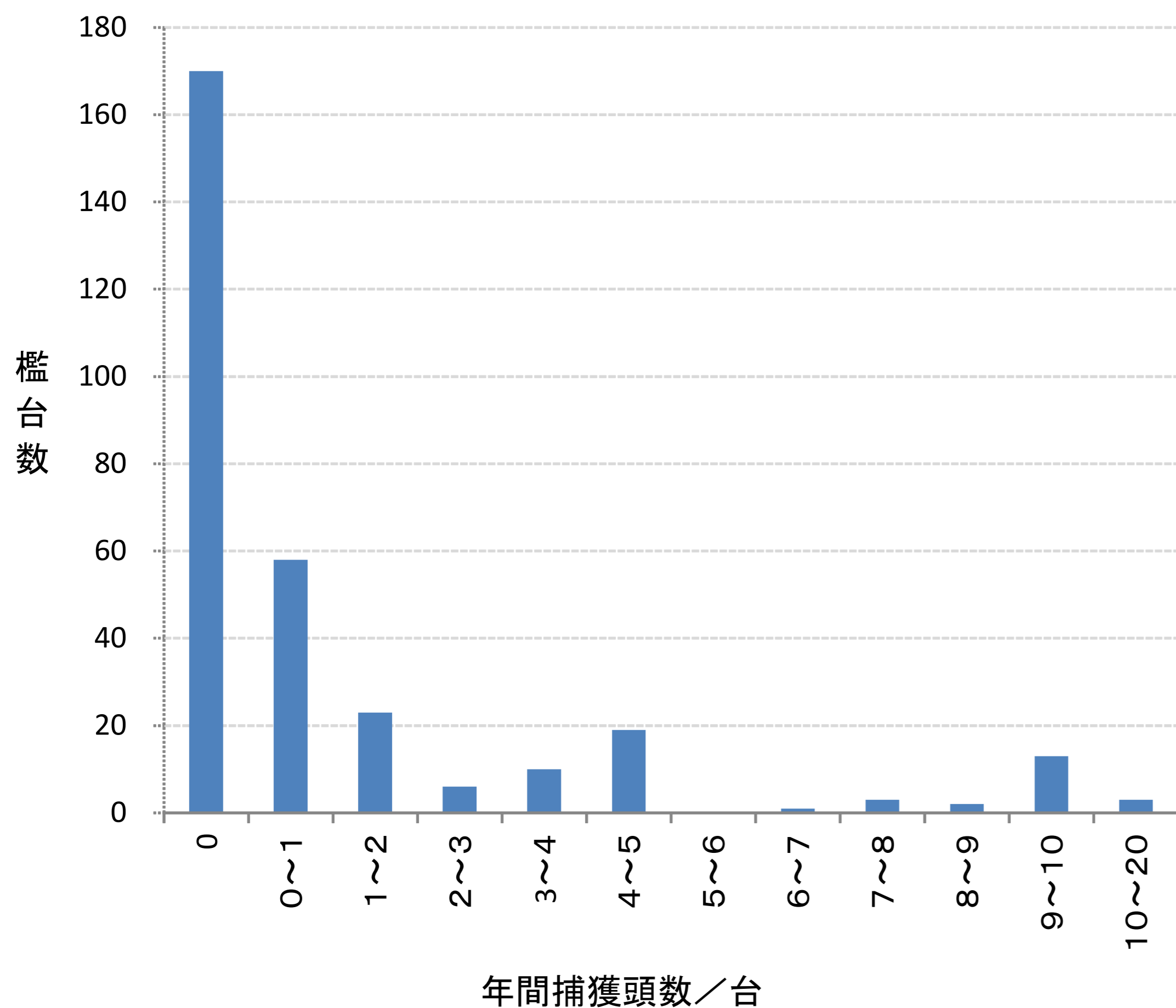


獣害対策研究

三重県の集落に設置されている檻の捕獲実績調査

H22年度の三重県獣害状況アンケートから、集落に設置されている捕獲檻の捕獲実績や捕獲効率等を調べ、檻による捕獲の現状を分析しました。



集落檻1基あたりの年間捕獲実績の分布

H22年度獣害アンケートの結果によると、三重県内の集落には檻が304基設置されていますが、1基あたりの捕獲実績はシカで1.4頭、イノシシでは0.98頭で、捕獲実績は高くないことが判りました。特に、捕獲実績がない檻がシカで169基、イノシシで129基もありました。これらの、捕獲実績が低い檻の捕獲効率を向上させていくことが、集落周辺での捕獲を推進し、被害の「犯人」を捕獲することに繋がります。

集落の檻1基当たりの年間捕獲数効率（シカ）

※この調査は、兵庫県森林動物研究センターの調査結果を参考にしています。



センサー付きの檻で捕獲されたイノシシ



仕掛けを警戒するイノシシ

イノシシ、シカの被害軽減のためには、集落周辺の「犯人」となっている加害獣を集中的に捕獲することも重要です。そのためには、檻による捕獲が重要ですが、捕獲技術が不足していると、動物に警戒されて捕獲できないことも度々あります。

捕獲技術を簡素化、平準化するセンサーなども活用し、集落周辺での捕獲実績を向上させることは、集落の被害軽減のためにも重要な捕獲方法です。